

第249回研究科委員会・第358回教員会議 議事要録

日時：令和5年9月15日（金） 13：30～13：38、13：38～15：05

場所：後援募金記念棟 会議室1-3

議題

◆研究科委員会◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和5年度9月修了判定について

回収資料に基づき説明があった。今回の博士前期課程修了予定者数は1名である。特に異論はなく提案通り修了が認められた。博士後期課程では修了予定者はいないことが報告された。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 博士前期課程秋入学新入生ガイダンス日程について

資料1に基づき、ガイダンスの具体的な説明があった。特に質問等は出されなかった。

(2) 学生の退学について

プロジェクター投影により説明があった。R4年度入学の博士後期課程学生1名が退学する。特に質問は出されなかった。

2. 学生生活委員会

(1) 令和5年度入学料免除（災害枠及び学類一般枠）選考結果について

回収資料に基づき説明があった。特に質問等は出されなかった。

◆教員会議◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和5年度9月卒業判定について

回収資料に基づき説明があった。旧カリ生では8名の在籍者がいるが、卒業予定者数は0である。新カリ生では18名の在籍者がいるが、卒業予定者数は0である。少しずつ進んでいる学生もいる。教授から、研究室配属前のフォローはコースで行うと聞いたがどうなっているかとの質問があった。教務委員長から、分野長やコースに任されているとの返答があった。また、コースに任せきりではなく、教務委員会としてもケアしており、両輪で進めていければと考えているとの付言があった。学生生活委員から各コースでの交流・ケアを働きかけているとの発言があった。学類長から、過年度生が増えることは望ましくなく、より良い方向で解決していければとの依頼があった。教授から、さらなる工夫が必要になるとの発言があった。以上の議論を踏まえ、提案通り承認された。

(2) 非正規生（科目等履修生）の受入れについて

資料2に基づき説明があった。「システム生理学」受講希望者が1名いる。質問等はなく提案通り承認された。

[報告事項]

1. 学類長

(1) 保護者との懇談会について

資料3に基づき説明があった。昨年度に続き今年度も開催したい。午前は全体会で、午後は14時から15時

半まで個別懇談となる。内容は昨年と同様である。各分野からM1生に卒業研究を紹介してもらい、教員会議後、分野長に選定依頼の連絡をするのでよろしくお願いしたい。出席委員会の委員長にも、当日昼休みの後援会役員との顔合わせに参加していただきたい。教授から、最大18名の意味について質問があった。これは保護者の数であるとの返答が学類長からあった。教授から、昨年度の事例を踏まえて、事前申込者について当日前に学生の単位等の実績把握をしておいたほうがよいとの指摘があった。学類長から、今年度も事前に把握しておきたいとの返答があった。

1. 学生生活委員会

(1) 令和5年度入学料免除（災害枠及び学類一般枠）選考結果について
回収資料をもとに説明があった。未納による除籍者はいないとの付言があった。

2. 国際交流センター運営会議

(1) 特別聴講学生（交換留学生）の授業履修について（依頼）
資料4に基づき学類長から説明があった。19名の特別聴講学生がいる。希望学生への対応でご協力をお願いしたいとの付言があった。教授から、すでに定員オーバーや受講調整をしている場合は、受け入れなくてよいかとの質問があった。学類長からそれによいとの返答があった。

3. 奨学寄附金の受入について

学類長から、今月はとくに無しとの報告があった。

[その他]

1. コンプライアンス教育の実施について

資料はなく、口頭で学類長から説明があった。今年度は対面式で10月の教員会議後に実施する予定である。

◆教育研究評議会◆

○第404回（8月29日書面開催）報告

(1) 【報告】2050年度ゼロカーボンシティの実現に向けた
福島市と国立大学法人福島大学の連携に関する協定書の締結について
資料1に基づき説明があった。締結式には評議員も出席した。

◆運営会議◆

○第189回（8月8日開催）報告

(1) 【協議】大学改革（学士課程改革）について

資料1に基づき説明があった。資料1-1は学長のメモである。適正規模の検討が最近強調されている。留学生の獲得が重要視されている。理系重視で学生を50%にしたい。資料1-4は非公開となっている。資料1-5には大括りの回答が示されている。「理工農重視」や教育学部への転換について説明があった。R8年4月の予定変更はない。組織変更の決定は12月末に変更となった。全体の学生総数は維持したい。資料1-6には過去の経緯から書いてある。現在は学部制に戻す計画となっている。スケジュールでは、理工はR7年度改革を目指しているので、年度を超えないように定員等を決定することを要望している。

准教授から、他学類や異分野間研究を重要視すると資料に書かれているが、具体的にはどうするのかとの質問があった。学類長から、人文系の状況や学際的な教育についての補足説明があった。教授から、教員養成に関して、音楽・美術・家庭の廃止はどこで決定されたのかとの質問があった。学類長から、全学的な議論になっていない状況と、人間発達が拒否している状況の説明があった。全学執行部と人間発達で相談しているようだが、全学的に議論する場はないとの付言があった。また、理工では、技術は難しく、工業も難しいので、大学改革の時に手放すことを全学に提案しているとの説明があった。別の

教授から、技術と工業の学外教員の状況について補足があった。

○第190回（9月5日開催）報告

（1）【報告】運営会議における令和5年度運営計画（大学院関連計画）の
進捗確認について（第2回目）

資料1と1-2に基づき説明があった。大学院の進捗確認で、充足率は地域デザインで73.8%であった。理工研究科は115%となっている。資料1-3の表に取り組みや分析・検証が載っているので参照してほしいとの付言があった。

（2）【報告】教育研究費の使用に関するコンプライアンス教育等実施計画について
資料2の説明があった。今年は懲戒事案があったため、資料が変更となっているとの付言があった。

（3）【報告】教育研究費の不正防止計画実施状況の確認について
資料3に基づき説明があった。資料3-1に詳細な表が掲載されているとの付言があった。

（4）【報告】ティーチング・アシスタント業務の適正な管理について
資料4に基づき説明があった。TAについて大学設置基準で明文化されたので、再確認してほしいとの依頼があった。指導補助者に授業の一部を分担させることができるが、研修（義務付け）や準備が必要となる。基本はTAの業務内容は変わらないと認識してほしい。TAの業務の具体的内容を確認してほしい。週20時間以上の例もあるので、注意してほしい。資料を読み直して、TAの実態や時間数、記述内容をチェックしてほしい、などの依頼があった。

（5）【報告】令和6年度国立大学法人運営費交付金概算要求額の伝達等について
資料5に基づき説明があった。水素研（仮称）が計上されたが、人数や予算は少なかった。少ない理由は額の上限が定められているためと想定される。来年度以降は、継続・拡充で対応する予定。教授から、教員2人で予算が大幅に少ないので、どうするのか教えてほしいとの質問があった。学類長から、継続・拡充で進めたいとの返答があった。どこか既存の建物に水素研の看板をかけるのかとの教授の質問に対し、学類長からまだ決まっていないとの返答があった。さらに、水素研の基本的構想は変更したくないが、人数は減じてスタートし、後で拡充したいとの説明があった。教授から、組織は作らなくてはならないので、そのイメージを知りたかったとの付言があった。

（6）その他情報共有
教員親睦会・歓迎会のアナウンスがあった。

以上